

連携

第41号

目次

- p1 新年のご挨拶
- p2 院内部署紹介 研修医室
- p3~4 栗原市立栗原中央病院登録医一覧
- p5 電子カルテシステム導入のお知らせ
学会・研修会・論文発表
- p6 医療安全研修会／第3回超音波研修会
がん患者・家族相談支援運営部会市民講演会
編集後記



〒987-2205

宮城県栗原市築館宮野中央三丁目1番地1

栗原市立栗原中央病院（代表）

TEL：0228-21-5330

FAX：0228-21-5350

URL：http://www.kam.or.jp/

地域医療連携室（直通）

TEL：0228-21-5335

FAX：0228-21-5336



新年のご挨拶

栗原市立栗原中央病院 院長 小林 光樹

新しい年を迎えまして、
本年も良い年であります
ように期待しております。

平成23年には未曾有の自然の脅威があり、その後の復興に向けて、全国からたくさんの支援の手が上がりました。栗原中央病院も、様々な医療機関や医療に携わる人たちと協力しながら、健康を守るための後方支援や避難所の健康支援などの活動に参加してきました。こうした活動の過程で、病院の中とは異なった環境や人々との共同作業をしていくことを通して、いろいろと見えてきたものもありました。その内の一つは、協力や連携をなくして、ことを成し遂げるのは難しいということです。

栗原中央病院は、急性期医療の充実に重点をおいて病院の機能を高める努力をしています。しかしながら、栗原中央病院が単独でこの地域で機能していこうとしても、うまくいくはずはありません。地域の住民の方や医療機関、介護施設などの保険医療機関と関わりを持ちながら密接な連携をとってこそ、急性期医療を担うことができるという思いが強くなりました。そのためには、互いに連絡を取りやすい、連絡を欠かさない、連絡を忘れない間柄を保って診療活動が続けることが、重要な課題の一つと思われます。では、

そのような密接であり、しかも適切な連携を作り上げ維持するというところに、どのようにしてアプローチしていったらいいのでしょうか。

その答えのひとつは、出来るだけ“顔が見える”病院になることではないか、と想像しています。その点で、平成24年は病院の顔や内容が、今まで以上に見えるような努力をしていこうと思います。働いている職員の顔、得意としている診療、あるいは重点的に取り組んでいる診療活動の内容、また本院で行われる催しや学術活動などについて親しみを持って接していただければ、お互いの協力や連携が取りやすくなるのではないかと思います。顔が見える連携というべきでしょうか。逆に栗原中央病院へ、声を通したいこともあるかもしれません。その際にはフェイス・トゥ・フェイスの方が相談しやすいかもしれません。意見を交わす機会というもの、多くあればいいのかもしれません。院内での勉強会や講演会を、積極的に活用していければいいと思います。できるだけ、院外からの出席や参加をしやすいできるように、積極的にお知らせしていきたいと思いますので、積極的に活用してもらえたらいいと思います。



部署紹介

研修医室



研修医 高橋宏和

栗原中央病院では、平成 22 年度より初期臨床研修医の受け入れを開始し、平成 24 年 1 月 1 日現在、6 名が勤務しています。スーパーローテート方式の研修で、内科、外科、精神科、産婦人科、麻酔科、地域医療等の必修科をまわり、残りの期間は自由選択として希望の診療科で診療を行います。医師としてのスタートとなる 2 年間で少しでも有意義なものにするため、皆真剣に日々の仕事に取り組んでいます。自己紹介も兼ねて、全員の紹介をしたいと思います。

(写真の左から順に)

三浦平寛 (みうら たかひろ)

臨床研修 1 年目 出身大学：東北大学 出身地：加美郡

外科系診療科を志しています。現在外科をローテート中で、毎日朝早くから出勤し夜遅くまで仕事をしています。素直で真面目な好青年です。

三井英俊 (みつい ひでとし)

臨床研修 2 年目 出身大学：東北大学 出身地：長野県

昨年 4 月まで石巻市立病院で研修をしていましたが、東日本大震災の影響で研修の継続が困難となり、5 月より当院で研修しています。現在内科をローテート中です。

平川和重 (ひらかわ かずしげ)

臨床研修 2 年目 出身大学：岡山大学 出身地：埼玉県

精神科医を志しています。現在内科をローテート中です。

武井健太郎 (たけい けんたろう)

臨床研修 1 年目 出身大学：東北大学 出身地：群馬県

内科系診療科を志しています。現在麻酔科をローテート中です。

ジャ・ウェンティン

臨床研修 1 年目 出身大学：東北大学 出身地：中国

東北大学病院で初期研修中ですが、内科研修のため当院で 6 か月間勤務することになり、3 月まで内科をローテートします。研修医の中では唯一の女性で、明るく、とても真面目です。

高橋宏和 (たかはし ひろかず)

臨床研修 2 年目 出身大学：産業医科大学 出身地：栗原市

外科志望です。出身地での医療に貢献したく、当院を研修先を選びました。現在外科をローテート中です。

地域の医療に少しでも貢献できるよう日々精進したいと思います。よろしく願いいたします。



● シミュレーター研修



● シミュレーター研修



● Friday Morning Lecture



● 院長回診

2月1日より電子カルテが始まります



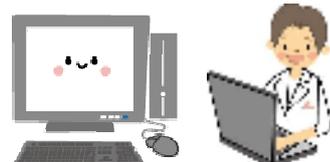
当院では、平成24年2月1日より、電子カルテシステムを導入します。新システム稼働により、患者様により一層円滑な診療が行われますよう、職員一同努めてまいります。

導入当初は、システム操作の不慣れや受付方法の変更などで、診療時間や待ち時間が長くなるなど、ご迷惑をおかけしますが、ご理解を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

また、稼働に伴い、2月1日(水)から10日(金)までの間、外来診療を制限させていただくことにしました。この間に、初めて当院を受診される患者様の診療は、緊急の場合を除き受付を控えさせていただくことがありますので、よろしくお願いいたします。



～シミュレーションの様子～



地域医療連携室からのお知らせ 《放射線検査（CT・MRI）予約の変更について》

2月1日からの電子カルテ導入に伴い、放射線検査（CT・MRI）の検査の予約方法が変わります。従来は連携室にいただいた電話を放射線科に転送し予約を取っていただいていたおりましたが、これからは、地域医療連携室で予約することになります。連携室に電話をかける際には、患者氏名、生年月日、年齢、性別、検査の内容・部位、検査希望日を伺います。その後一旦電話を切っていただき、予約登録後、予約票をFAXにて送付いたします。尚、希望日の予約がとれない場合は、電話でご相談させていただきます。また、紹介患者受診依頼票の原本は、従来通りFAXで送付後、患者様に持参させていただきますようよろしくお願いいたします。不明な点は、地域医療連携室にお問い合わせください。

学会・研修会・論文発表

☆巻頭言：『自己免疫性膵炎—膵管狭細型膵炎からIgG4関連疾患まで』

肝胆膵 64(1)：5～7, 2012・・・小泉 勝

☆けやき 2011.11 第22号 特定非営利活動法人良陵協議会会報

『当院の臨床研修の状況と第37回富士研ワークショップ』・・・内田 孝

☆第39回日本磁気共鳴医学会大会 2011.9.28—10.1 ～福岡県 北九州市～

『3D高速撮影法おける傾斜板ファントムを用いたスライスプロファイルの検討』

・・・○吉田 礼^{1,2} 小倉 隆英¹ 田村 元¹ 森 一生¹ 引地 健生² 町田 好男¹

東北大学大学院医学系研究科保健学専攻¹、栗原中央病院²

☆全国自治体病院学会第50回記念大会 2011.10.19—20 ～東京都 千代田区～

『地震発生時における人工呼吸器のストッパー固定の有効性について』

・・・○菅原 忍、白鳥 理恵、渡邊 香奈子、熊谷 智恵美

☆宮城看護学会第7回学術集会 2011.11.12 ～仙台市～

『新卒看護職員のローテーション研修体制の見直し

—各部署で経験できる看護技術項目設定による効果—』

・・・○後藤由美子、菅原由美、新妻葉子

☆災害医療講演会 2011.11.12 ～新庄市 山形県立新庄病院～

『東日本大震災、岩手・宮城内陸地震の体験談とその経験に基づく災害対策の実際』・・・内田 孝

☆宮城県看護協会 医療安全管理者養成研修 2012.1.12 ～仙台市～

『職場風土と安全文化（安全文化の醸成）』・・・渡邊 和子





医療安全研修会

平成 23 年 11 月 17 日 (木) 18 時より、新潟大学大学院医歯学総合研究科 呼吸循環外科学分野 榛沢和彦先生をお招きし、『エコノミークラス症候群 肺塞栓の予防と治療』の演題で、ご講演をいただきました。3 年前の岩手・宮城内陸地震の際も、栗原市内を中心にエコノミークラス症候群の発生予防のために、榛沢先生に大活躍していただいたこともあり、当院以外の病院、診療所等からも大変多くの方々に参加されました。会場に入りきれない方々には総務課職員の方々の努力により、外来 2 階に同時中継の設備を整え、第 1 会場と同じ雰囲気を受講することが出来ました。弾性ストッキングが予防だけではなく治療としても有用であること、肺血栓の大きさには誰しもが驚かされ DVT 防止について、もっと真剣に取り組む必要性を強く考えさせられたことがアンケート結果からも伺われました。災害との関連での研修ではありましたが、日常の医療活動にもこの学びを多いに活かし、DVT による死亡障害の防止に医療安全としても努めて行きたいと思います。

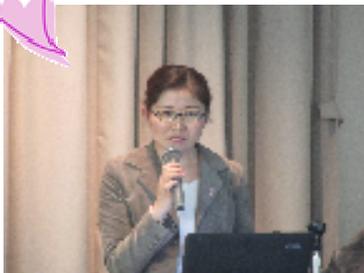
リスクマネジャー 佐藤美和



第 3 回超音波研修会

第 3 回超音波研修会が平成 23 年 11 月 14 日開催されました。今回も秋田赤十字病院内科部長の石田秀明先生にお話し、超音波検査の実演指導と、「肝腫瘍の見つけ方と読み方」と題しご講演をいただきました。回を重ねるごとに、少しずつですがレベルが上がって来たように思っています。これからも、年 3 回の研修会を開く予定ですので、多くのご参加をお待ちしております。次回は平成 24 年 3 月 12 日を予定しています。

主任放射線技師 千葉崇宏



がん患者・家族相談支援運営部会 市民講演会

平成 23 年度のがん患者・家族相談支援運営部会主催の市民講演会を 11 月 7 日に『家族が“がん”と診断された！その時あなたに起こること』というテーマで、宮城県立がんセンターのがん看護専門看護師の松田芳美先生にご講演いただきました。

がんと診断される前、がんと診断され、がん治療を行い、緩和ケア、そして、ターミナル期に移行し患者さんが亡くなるという一連の時間の流れの中で、家族が抱える問題について、日常行っているがん相談から、具体的事例を通してお話していただきました。

患者さんががんになった時、家族全体への影響や問題が起こることから、家族は第 2 の患者さんであるということ。家族の抱える問題も告知・代理決定、心理的苦痛、家族機能・役割の変化、経済的問題、患者一家族関係の問題、看病疲れ・疲労、死別・悲嘆によって起こることなど、細部にわたるケアの在り方など多くを学ぶことができました。

大変分かりやすく一般市民の方々もうなずきながら聞きいっている様子が大変印象的でした。講演後のアンケートに受講した市民の方から、「講演の内容が、今の私に当てはまっており、気持ち少し楽になりました。」「とても心に響く講義でした。」という感想を頂きました。

地域医療連携室長 渡邊和子



編集後記

今年は、辰年。『漢書 律歴志』では、「動いて伸びる」「整う」を意味し、草木が盛んに成長し、整った状態を表すそうです。龍が天に昇るように、良い年となりますように。T.S

